

「子ども達の素敵な笑顔を中心に
～対話が子どもの育ちを支える～」

秋田喜代美(学習院大学)@南城市

本日

- 1 はじめに こどもまんなか社会とこれからの保育
- 2 子どもたちの探究:ものやこと、ひととの対話
- 3 探究のプロセスを支える保育者や教師の対話と環境

1 こどもまん中社会とこれからの保育/ 教育

こどもまんなか中社会

地域でこども観を共有しよろこびのある
コミュニティ形成が求められている



2023年4月こども家庭庁発足

HPより <https://www.cfa.go.jp/>

こども家庭庁は、
こどもがまんなかの社会を実現するために
こどもの視点に立って意見を聴き、
こどもにとっていちばんの利益を考え、
こどもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、
こどもの権利を守るための
こども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます。

こども基本法（令和4年法律第77号）概要

目的

- 日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、
 - ・次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、
 - ・こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、
- こども施策を総合的に推進すること

定義

- 「こども」……心身の発達の過程にある者
- 「こども施策」……①～③の施策その他のこどもに関する施策・これと一体的に講ずべき施策
 - ① 新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て、おとなになるまでの心身の発達の過程を通じて切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援
 - ② 子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階に応じて行われる支援
 - ③ 家庭における養育環境その他のこどもの養育環境の整備

基本理念

- ① 全てのこどもについて、個人として尊重されること・基本的人権が保障されること・差別的取扱いを受けることがないようにすること
- ② 全てのこどもについて、適切に養育されること・生活を保障されること・愛され保護されること等の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること
- ③ 全てのこどもについて、年齢及び発達の程度に応じ、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会が確保されること
- ④ 全てのこどもについて、年齢及び発達の程度に応じ、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること
- ⑤ こどもの養育は家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、十分な養育の支援・家庭での養育が困難なこどもの養育環境の確保
- ⑥ 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備

責務等

- 国、地方公共団体の責務
- 事業主の努力（雇用環境の整備）・国民の努力（こども施策への関心と理解等）

Respects for Children's Views and Feelings

こども基本法の理念を踏まえ

『教えることは聴くこと 学ぶことは語ること』

(デボラ・マイヤー)

「学校を変える力 イースト・ハーレムの小さな挑戦」より

Characterに刻まれる深い学びを保障する教育

「教育の目的は、生徒たち自身がまず第一に自ら知識を摂取し自ら感銘を受け、自ら意見を持ち、精神的な楽しみを求めて勉強することであるはずだ。・・・全てを忘れた後に残ったものこそ、本当に学んだものになる。」

「子どもを育てるということは、子どもの中に生きる喜びと希望を育てること。子どもたちに人間として生きることの『喜び』と『希望』を学ばせたい」

エレン・ケイ『児童の世紀』1900



やさしい版

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン

はじめの
100か月の
育ちビジョン

The First
100 Months of
Growth Vision



こどもみんなの
こども家庭庁

「はじめの100か月の育ちビジョン」とは？

- ✓ こどもの小学校1年生までの重要な時期に、一人一人が健やかに育つことができるよう、みなさんに大切にしてほしい考え方をまとめました。
- ✓ すべての人に「はじめの100か月の育ちビジョン」に共感してもらうことで、社会の考え方を変えていくきっかけをつくるとともに、「羅針盤」が進むべき方向を指し示すように、国や自治体がどのような政策に取り組んでいくべきかを示す役割を果たします。



「はじめの100か月」とは？



- ✓ お母さんがこどもを妊娠してから、小学校1年生までが、だいたい100か月（※）。
- ✓ 長い人生において、人格の基盤を築く、はじめの重要な時期というメッセージが込められています。

※産前月によって変動あり。94～106か月＝概ね100か月。

「はじめの100か月の育ちビジョン」はなぜ必要？

「はじめの100か月」は、人生を幸せな状態（ウェルビーイング）で過ごすため、特に大切な時期です。しかし、すべてのこどもがひとしく、健やかに育つことができるのかについては、課題があります。



などの間に「切れ目」が多いため、

- ✓ 社会全体で幼児期までのこどもの育ちを支える共通した考え方を広め、
- ✓ 「はじめの100か月の育ちビジョン」に関連する取組を力強く進めていく、道しるべが必要です。

ウェルビーイングとは？



「はじめの100か月の育ちビジョン」では、「幸せな状態」を身体、心、それを取り巻く環境や社会の状況、すべての面で良い状態にあることとして捉えており、これを専門用語で「ウェルビーイング」と呼んでいます。

バイオサイコソーシャルとは？

人間は、「身体」や「心」、「周りの環境や社会」によって、形づくられています。
これら3つの状況を全体として見ることで、こどもがどのような状態にあるかを把握することができます。

○ 身体的 (バイオ) ○ 精神的 (サイコ) ○ 社会的 (ソーシャル)

バイオサイコソーシャルな面で良い状態・幸せな状態



これらを保障することは、すべての人のウェルビーイング向上につながります。

何を大切に
するの？

幼児期までのこどもの育ちの5つのビジョン



- 01 こどもの権利と尊厳を守る
- 02 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める
- 03 「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える
- 04 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする
- 05 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す



01

こどもの権利と
尊厳を守る

こども基本法を踏まえて、権利や尊厳を守る



- ✓ 乳幼児は生まれながらに権利をもっている

すべての乳幼児が大切に育てられている。



- ✓ 乳幼児の生命や生活を保障する

どんな環境や状況にあっても、生命・健康・衣食住などが
守られている。



- ✓ 乳幼児の思いや願いを尊重する

乳幼児は、言葉だけでなく、様々な形で思いや願いを表現。
一人一人のペースに応じて、それらが尊重されている。

02

「安心と挑戦の循環」
を通してこどもの
ウェルビーイング
を高める

乳幼児の育ちには、

「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切



豊かな遊びと体験



様々な人や自然・絵本などの環境と出会い、興味・関心に
応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」



アタッチメント（愛着）



こどもが不安なときなどに身近な大人が寄り添うことや、安心感
をもたらす経験を繰り返すことが、「安心」という土台を築く

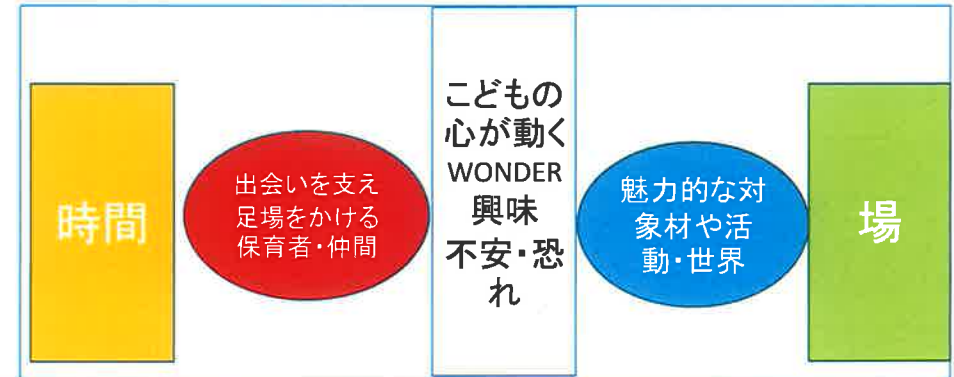
育ちのメカニズムとしての安心と挑戦の循環 愛着 発達 の最近接領域ZPD

02
「安心と挑戦の循環」
を通してこどもの
ウェルビーイング
を高める

乳幼児の育ちには、
「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切



安心と挑戦の環をつなぐもの



03

「こどもの誕生前」
から切れ目なく
育ちを支える

育ちの環境を切れ目なくつくり上げ、
次世代を支える好循環をつくる



04

保護者・養育者の
ウェルビーイングと
成長の支援・応援
をする

こどもを育てる、保護者や養育者を支える



✓ 支援・応援を受けることを当たり前

保護者や養育者が幸せな状態（ウェルビーイング）であり、親として成長できるよう、支援・応援は不可欠。



✓ すべての保護者やこどもとつながること

すべての保護者やこどもが必要な支援につながるよう、接点づくりなどの工夫が欠かせない。



✓ 保護者・養育者がこどもと「共育ち」

保護者や養育者自身も、「こどもとともに育っていく」という視点が大切。

すべての人や環境を活かし、
オールジャパンでこどもの育ちを支える



これからは、保護者・養育者だけでなく、地域社会の全体で子どもを育てる時代。
みんながそれぞれの立場で、子育ての主役に。

専門職向けガイドブック

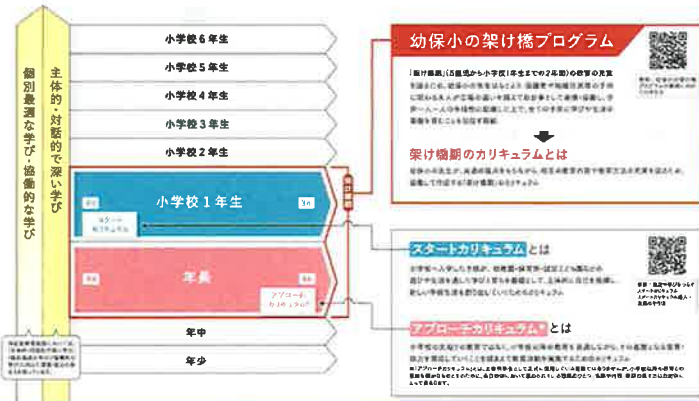


国の方での資料や動画 本年4月



幼児教育と小学校教育が つながるために何が行われているの？

幼児教育で育まれた資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくために、子供たちの発達を見直し、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しながら、いわゆる「アプローナカリキュラム」や「スタートカリキュラム」「架け橋期のカリキュラム」等により、教育内容や教育方法を工夫しています。



主体的対話的で深い学び 個別最適な学びと協働的な学び

一見すると異なるものに見える幼児教育と小学校教育。
しかし、実は、子供たちに「育みたい資質・能力」や「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方には連続性・一貫性があり、幼児期と児童期の子供の発達や学びはつながっているのです。そして、なにより「子供たちをかけがえない存在として迎え、一人一人のよみい成長を願う」というそれぞれの先生方の気持ちは、きっと同じなのではないでしょうか。
現在、地方自治体や園・小学校において「幼児小の架け橋プログラム」に取り組むことが期待される中、高校段階や中学校などを越えて、子供たちの学びをつなげていくために、関係者の皆様にも活用いただけることを期待しております。

単元やさまざまな教科での挑戦

どの教科でも
つながっていく

[この章の構成]



2 子どもたちの探究 なぜ今探究？



日本教材文化研究財団、2020

なぜ今 探究？ 子ども

探究を問うことは、人が人として遊び学び
育つ道筋を問うことにつながる

感性と気づき、ワクワクから始まる主体的
行為としての探究 AIにはできないこと

なぜ今探究？ 保育者

一人ひとりのこどもの主体性、そこで何を感じ、心が動き、
気づき、どのように関わり、関係性がうまれていくかを問う
プロセス

子ども理解 共主体 (Co-Agency) の過程)

子どもの思いや願いをかなえるだけでなく、
さらに高めたり、深めたりして
一人ひとりの子どもの輝きを保障していきたい。

探究の学び

教育には2つの流れがある

民主的市民の育成のために、探究のレトリックを教える
奴隷の育成のために、従順のレトリックを教える

Joseph Schwab, (1969)

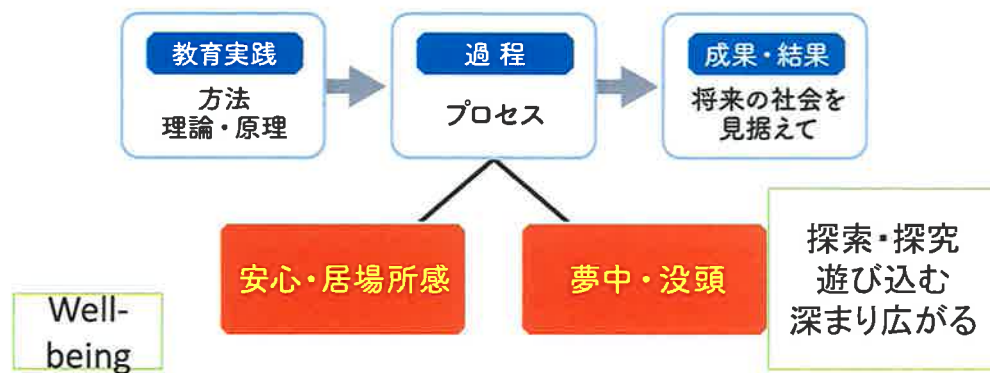
"Inquiry learning"



Schwab, Curriculum, and Liberal Education: Selected Essays. Univ of Chicago Pr.



子どもの経験から考える教育の質 (Laevers 2006)

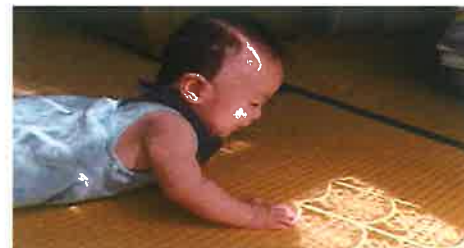


探究する姿

探求の芽生え ～探索～

生後5か月：レースカーテンの木漏れ日で遊ぶ乳児

見えたものに手を伸ばすだけでなく、手を出して触れようとしたり、取ろうとしたりして、何度も繰り返す行動が見られる。



乳児の探索

- ・光、音などを感じた方向に顔を向ける
- ・哺乳時に母乳やミルクを吸う
- ・安心して眠る、不快な感情（空腹、オムツ、騒音等々）を嫌がる
- ・外気浴で光と風の心地良さを感じる 等々

1歳児の探索

- ・散歩や戸外遊びを喜び、動きまわる
- ・様々な大人や子どもへの関心を抱く
- ・簡単な言葉が理解でき、泣く、笑う、以外の表現でも、身振り・手振りで自分の思いを表す 等々

詳しくは本文58頁を参照

日本教材文化研究財団、2020

「自分で決めた遊び」を心ゆくまで楽しむ

2歳から3歳へ



主体的な遊び環境の中で、自分で選択し、決めることができるようになることが0児の探索を支える基盤にある。気に入った玩具を操作し繰り返して遊ぶ経験が重要である。



気に入った玩具「ダンブトラック」を動かしながら

クラスの子どもたちの多くが砂場で遊びを楽しんでいるが、それには関心を示さない。玩具の中からしばらく遊んだ後ダンブトラックを手にする。その後20分間もお気に入りのダンブトラックを動かす。遊びがなくなって終わったり、四つ這いで移動させたりして心ゆくまで楽しんで、「カンカンカン」と言いながら、車さん乗り回す様子を見立て、自分で決めた遊びを心ゆくまで楽しむ。

詳しくは本文49頁を参照

自ら探究を行う過程の中で ～気づきや発見～

3歳半を迎えた0児。自分なりに決めることをどうしようかと、友達の様子を見る姿に出会う。また、嫌なことや苦手なことにも0児のやり方で「やってみようかな」としている。「なりた自分」に近づくためには、先を急がない時間、友達とのモデル、刺激、自立的な生活等々が必要である。

4歳を迎えようとしている0児の「良さ」と可能性の発掘が楽しみである。



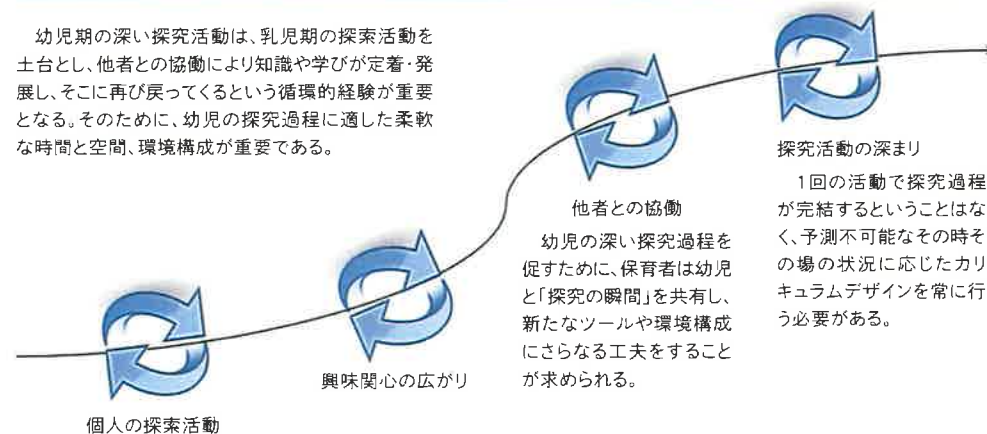
水が顔にかかるのは嫌いで、やってみようかな



詳しくは本文51頁を参照

探索活動から探究活動への道すじ

幼児期の深い探究活動は、乳児期の探索活動を土台とし、他者との協働により知識や学びが定着・発展し、そこに再び戻ってくるという循環的経験が重要となる。そのために、幼児の探究過程に適した柔軟な時間と空間、環境構成が重要である。



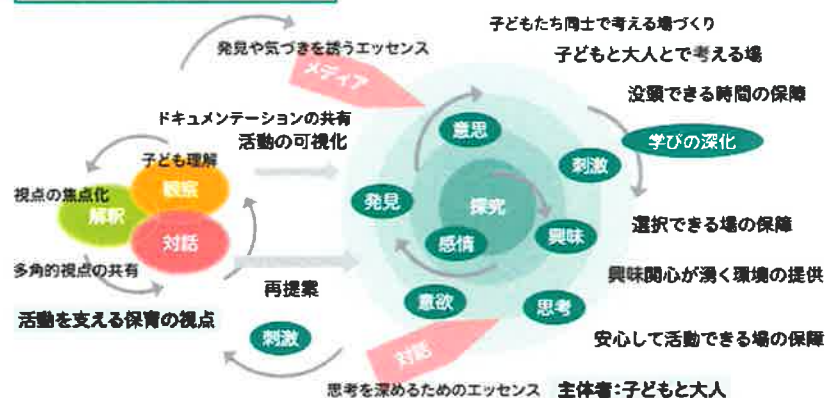
遊びを
丁寧に
観る

一つの
ものとの多様
な
対話



b-

探究活動を支えるしくみ



教材文化財団、2023 山岸

とうきょう すくわくプログラム ってなに？

幼稚園や保育所ですべての乳幼児の
「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を
応援する幼保共通のプログラムです



子供は日々の遊びの中で、無意識に「探究」を積み重ねながら成長

プログラムの活用によって、単なる「遊び」にとどまらず、ねらいや意図をもって「探究」を実践

たとえば...

光の探究活動



✓ 水に反射する光を楽しむ など

音の探究活動



✓ 楽器を使い音の振動を感じる など

「あれ?」「なにかな?」という好奇心や夢中になって遊び込む探究心を大切に育んでいきます

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

「探究活動」の流れ

各国の特徴や強みを活かしながら、子供たちの興味・関心に応じて探究活動を実践

テーマ例



保育者の対話と探究



アトリエ

ドキュメンテーション こどもたちの100の言葉

活動事例

テーマ：光

様々な光を当てながら水を探究する

環境をデザインする



水を入れた水槽とトレース台、卓上ライトを用意し、光を当てた水の様子を探究できるよう準備

探究活動を実践する



✓ 光を当てた水の様子を観察した
✓ 水に反射する光を楽しんだ



✓ ペットボトルを水の中に入れると浮力で浮き上がることを発見し、繰り返し試した

振り返りをふまえた気づき



先生A

✓ 0歳児も長い時間一人で探究していた



先生B

✓ 子供を「見る」ことを大切にすることで、子供の言葉が聞こえたような気がした

2 事例を通して子どもの探究、保育者の探究を考える

2歳児クラス 関係性から学ぶ (くらき永田保育園 ソニー教育財団)



①ユスラウメを食べる為に
水道に洗いにきたYちゃん



②指先を見ると
赤くなっている



③ユスラウメと指先を
交互に見る

2歳児クラス (くらき永田保育園 ソニー教育財団)



④水道で手を洗う



⑤再び指先を確認



⑥ユスラウメを触ったら指先が赤
くなったことを保育士に伝える

2歳児クラス (くらき永田保育園 ソニー教育財団)

[保育士] 赤くなっちゃったね。

[Yちゃん] うん。(水道の方を見る)

[保育士] 手を洗う？

[Yちゃん] うん。(手を洗う)

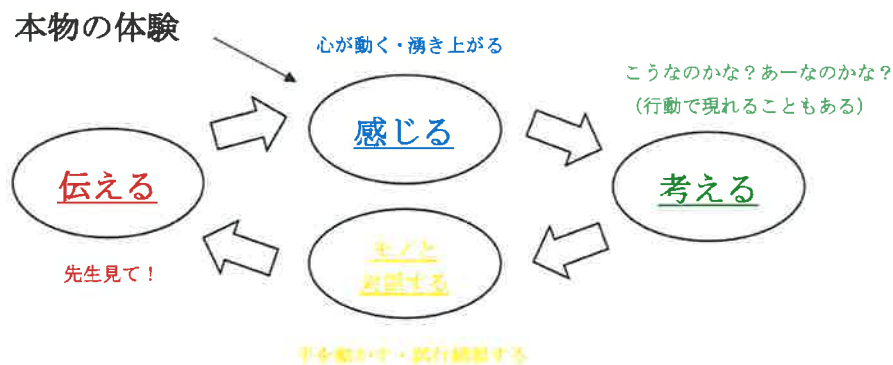
[保育士] おててどうなった？

[Yちゃん] (指先を見つめる)

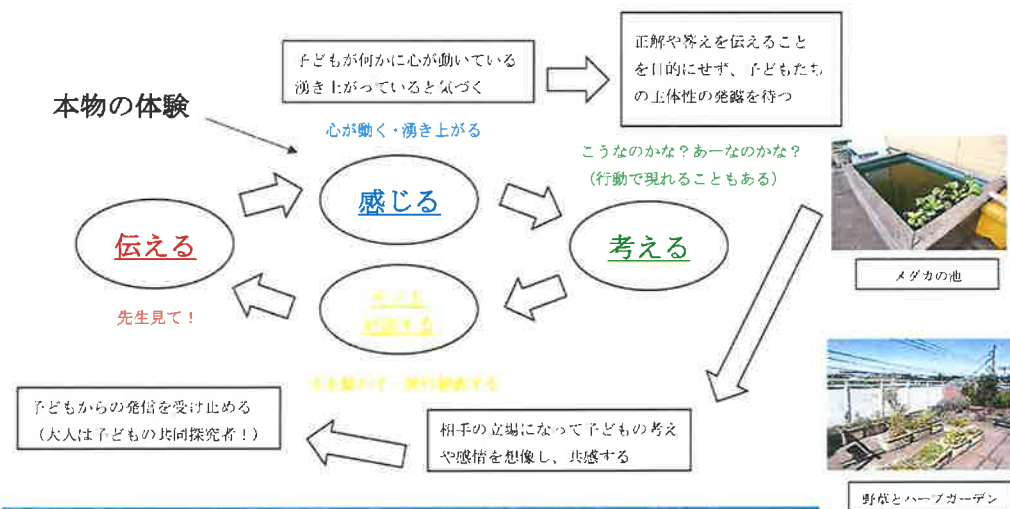
[保育士] 綺麗になったね。

[Yちゃん] うん。(再び実を摘み指先を確認する)

くらき永田保育園の〈学びの黄金サイクル〉



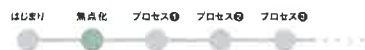
本物の体験



乳児の植物の探究(こどもな一と山田
保育園:秋田・松本(2024)より)



テーマの焦点化



探究のプロセス①

これなんだろう？— 知識と経験がつかるとき

1歳児のYちゃんは、散歩先の広場にある花壇のそばの草むらに、球根が落ちていることに気がきました。

その球根を保育園に見せ、

「これなんだろう？」「チューリップかな？」

と球根を拾って観察していました。

「なんの球根だろうね？」という保育者の問いに、「チューリップかな？ この前植えたのと似てる」と観察していました。

その球根を園に持ち帰り、チューリップのプランターに植えてみるようになりました。

球根を持ち帰る途中も大切に手に持って。

「チューリップかな？」
「Yちゃんがうるい」
「みんなで！」

という言葉が子どもたちの間で飛び交い、拾った球根に興味をもち、植えることをとても心待ちにしていました。



保育者の視点

Yちゃんが広場で球根を見つけたときは、もうすでに購入した球根を植えたあとだったので、球根を植えた経験から広場の隅にあった球根に興味をもち、それを植えてみたいという欲求が生まれたのではないかと感じました。保育者たち自身も、拾った球根も植えて観察したら違いが見えて面白そうではないかと思い、子どもたちに「園に帰って一緒に植えてみる？」と提案をしました。すると子どもたちもうれしそうに球根を持って帰り、球根を植へ、その後の成長を観察するという、興味や活動がより広がるきっかけになりました。広場にあった球根を持って帰っていいのが悩みましたが、花壇の近くの草むらに放置されているものだったので拾って帰ることにしました。



探究のプロセス②

育つ芽の変化に気づく——芽は少しずつ伸びている

球根を植えて芽が出た後、少しずつ成長するチューリップの芽の大きさを観察しました。初めは保育者が定規を用いて大きさを測っていましたが、「2cm」や「2.5cm」という単位が子どもたちには理解しにくいようでした。その後、ブロックの人形を芽の隣に並べ比べていくと、大きさの違いがわかりやすくなったようでした。



2歳児のAちゃんは

「これめちゃんがい！」

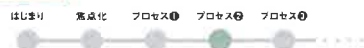
と人形よりも芽が大きいことに気づき、

2歳児のSくんが「これといっしょ？」と言うと

Aちゃんが「ちがうよ！」といったように、

自分の視点から見て気づいたこと、思ったことや感じたことを口々に言い合い、子どもたちの中で「芽の大きさ意見交換会」が始まりました。

その後も人形だけでなく、小さなカップなどままごとで使用している玩具も用い、大きさを比較する様子が見られました。



4月中旬に散歩に出かけると、子どもたちは街中に咲いているチューリップを次々と発見しました。周りにチューリップがないと思っていた場所で

「チューリップ！」

と2歳児のNちゃんが叫んだため、Nちゃんの指さす方へ目をやり、保育者も一緒にじっくり探してみると、高い壁の上に住宅の花壇があり、そこで咲いているチューリップの花が少し見えていました。

Nちゃんの視線の高さからは見つけるのが難しいような、一見見逃してしまいそうな場所にあるチューリップも見つけることができました。

その後も散歩中にいろいろな場所にあるチューリップをみんなで見つけては報告し合っていました。



小さなチューリップ発見隊



保育者の視点(担当保育者自身の視点での思考、悩み、試みなどを書く)

同じ散歩コースでも、子ども達の視野がかなり広がったことに1番成長を感じた。一緒に球根から植えてみんなでこのプロジェクトを始めたことで、チューリップの色の変化についてや、園で咲いた色とは違う紫色のチューリップについて話しており、子ども達同士での会話が広がった気がする。

・第三者からの示唆

チューリップに着目し始めた子どもたちは、チューリップが自分たちが住む街の中の至る所に咲いていることに徐々に気がついていった。意識的にチューリップを探すNちゃんにとっては、認知できるものが増え、見えている世界が広がっていると言えるのではないだろうか。私たちはNちゃんが「自然を意識している」瞬間に立ち会うことができたと言える。



探究をふりかえって

一人の子が図鑑の花に興味をもち出したことをきっかけに、その興味・関心が子どもたちの中で広がっていることに気づいた保育者が、その広がりをより豊かにできないかと「お花屋さんへ行く」「球根を購入する」「実際に植えてみる」と身近にできる活動を提案しました。子どもたちの興味・関心の広がりを支えながら、さらに豊かにしていくための試みがなされました。成長するチューリップを観察していく中で、子どもたちが成長の様子や気温の変化などによって季節を感じることもできました。そして、散歩を通して自分たちの生活している地域のことに今までよりも少し目を向けることができるようになりました。それは少しかもしれませんが、子どもたちにとっては大きな変化であり、大きな成長の証なのだと思います。

今回の事例では散歩の途中でチューリップを探していましたが、散歩の途中に自分たちの身の回りにある世界に気づききっかけになったように思います。広場の隅で拾ってきた球根は大きく育ちましたが、結局花は咲くことがなく(p.69 上段写真右端)、「花が咲かないとわかってたから捨てられてたのかな」との推測も出てきて、「なんで球根見ただけで花が咲かないってわかるんだろうね?」とまた新しい不思議に出会うこともできました。探究をふりかえって、このように子どもたちとともにいろいろな不思議に出会いながら成長していきたいと改めて実感しました。

幼児:ちゅうりっぷ

亀亀ヶ谷学園お日様こども園



子どもたちとの対話から生まれた気づき



episode

花のないチューリップ

kaga、2024⑦月号
加陽保育園

「花がない」

その理由はなんだろう？

対話を通して子どもたちの考えに触れてみます。



「うえかたへた やったんや」 「きょうこんだ むき あったやあす
それがよこさかしたやったんが…」
「おかった！じっあいまつちのなかに はな さいとるんじやない？」
「かぜ びんうで ぶくとさあるし ぼろとんでいったんやない？」
「かれると したいくし もうかれたんが」
「かれたら おわり」
「いや、また さくよ」
「みなにせんせい、ちゅうりっぷは さいとあいいし
みずあけるの たいへんやうたんがな？」
「はなは あずきもあるし すなもあるよ」 「きくし、かん、か らがう」



加陽保育園 園長
三谷 邦代 さん



加陽市 子育て支援課
Instagram

咲かなかったチューリップについて、子どもたち一人一人が、想像を巡らせながら自分の考えや思いを言葉で伝えます。答えや正解を見出すためではなく、今ある知識と想像する世界を楽しみながら考えたり、友だちの気持ちを感じとったり…。そのプロセスこそが大切だと思っています。その後、この対話の内容を知ったそのお母さんは庭先のチューリップを持ち帰りました。庭先のチューリップより、子どもたち自らの力に心動かされ、そこに価値をおかれたのではないのでしょうか。咲かなかった1本のチューリップについてこれだけ深く考えたことがあったらどうか？私自身も振り返ります。「咲かない＝かわいそう」ではないことを子どもたちが私たち大人に教えてくれたのです。

小学校の先生が関心を持たれた 探究事例

3

宮前幼稚園・宮前おひさまこども園
亀ヶ谷元譲
日本教材文化財団研究会資料より

探究の中で自然に表現が現れる
そこへといざなう



たけのこ

3 探究のプロセスをささえる保育者・教師の対話
と環境

探究過程で大事にしたいこと

- ①観察：子どもの気づき、興味・関心、発見などを丁寧に観察する
- ②解釈：何が起きているのか、観察から解釈する。保育者の考えや視点、願いも明文化する（ドキュメンテーション）
- ③学びの焦点化：解釈から保育者間で対話し、多様な視点から学びの焦点を探り、中心的なテーマを考える
- ④問いの設定：子どもにどのような「問い」を投げかけるか、また、保育者もどのような「問い」をもつか

立ち止まり、再提案
- ⑤環境の設定：学びが深化し広がるための環境を考え提案する（空間・素材・道具など）

子どもも保育者も感じ気づくが発発点

心のつぶやき	気づきの質
なるほど、あっそうか	新たな知識や情報を得て、それまでの知識とつながる
あれ、あっ、おや	驚きや疑問や不思議など今までとちがう事実に出会う
ああ、見える	より詳細に丁寧にみる、見比べることで気づく
こういうことだったのか	自ら試してみではじめて、自分ごとになって気づく
ここが変わったな	子どもの理解、自らの過去と今の変化に気づく時間的変容
こんなこともできそう	新たな方法への気づきや見通しによるシミュレーション
つまり、要するに	ふりかえりを通しての新たな見方や自分自身の見方の特徴への気づき
もっとこうしてみたい	こんなことができるのではと対話等から着想を得る

探究のための工夫

- 1 子どもが選べる 多種多様な素材
- 2 子どもの発想を生かせる
- 3 子どもの経験の足跡、物語が環境の中に埋め込まれる
- 4 地域の身近な素材を生かす
- 5 多様なメディア（媒介物：絵本、図鑑、デジタル、巻き尺、道具）を遊びの中で
 子どもが使えるように育む





板橋富士見幼稚園



板橋富士見幼稚園

2023年にうえたいいちご
2022年のいちご

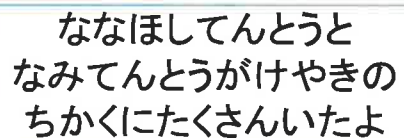


板橋富士見幼稚園



あかぐみニュース
板場添い富士見幼稚園





自然
しん
ぶん



ニュースづくり
さんねんニュース P20

気づきシート

事例「ダンゴムシの今日の大人気」の「気付きシート」と「気付き変容図」

気付きシート

気付きの要因 (何人か・何物・場所)	気づきの姿	気づき後の思考・行動	どのような気づきか
★店に食べ物を置き去れた場合 量ミカンの店にダンゴムシが隠か り、皮に量がズスな母子	ケント「うわあ、量ミカンの人笑や、 ウソでもないっばい」 「ダンゴムシの飲・量との量と嘔吐」 [関係性]	好奇心・探究心ー ケント「これは何かなら」と店に 乗せた新聞紙やチャペンを席に持 ち上げる（比較）	目の前の事業への気づき
▼ケントの実感	カナン「はんまや〜」 「ダンゴムシの嘔吐」 「ケントの観察力」	（街への）帰郷（ケントへの）憧れ ーケントについていく	友達の言葉による気づき
流れ所望紙の裏面にも大量のダン ゴムシがいる様子	ケント「うわあ！ 新聞紙も大入 気や〜」 「ダンゴムシの嘔吐」		真格の経験との比較による気づき

気づき
変容図

P35

気付き変容図 ③ダンゴムシの今日の大人気



むかしっぱいもよう と いまっぱいもよう

京都市なみつば幼稚園



布や和紙唐紙と出会う

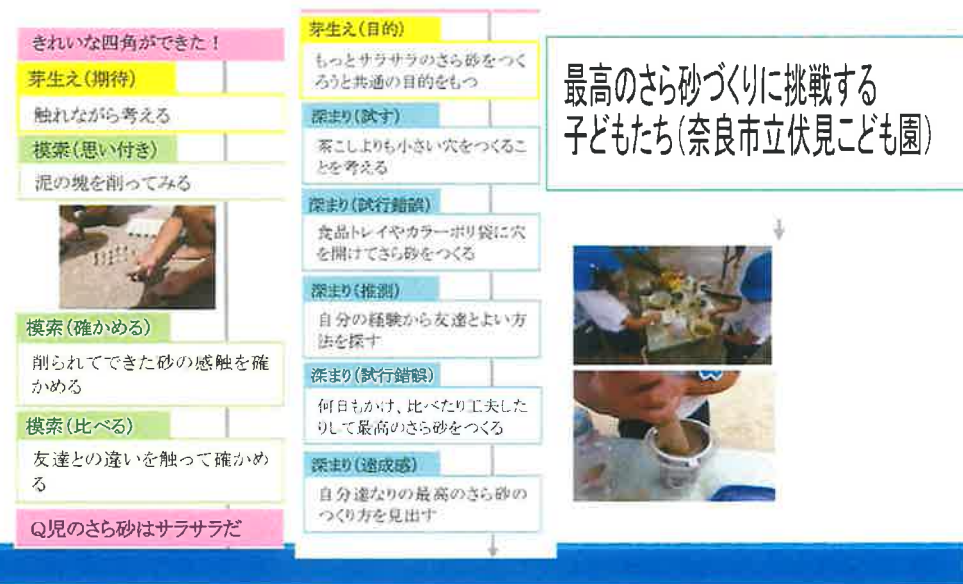
みつば幼稚園、津田 純佳

探究の深化 ～科学する心を育てるために～



奈良市立伏見こども園
園の了解を得て使用





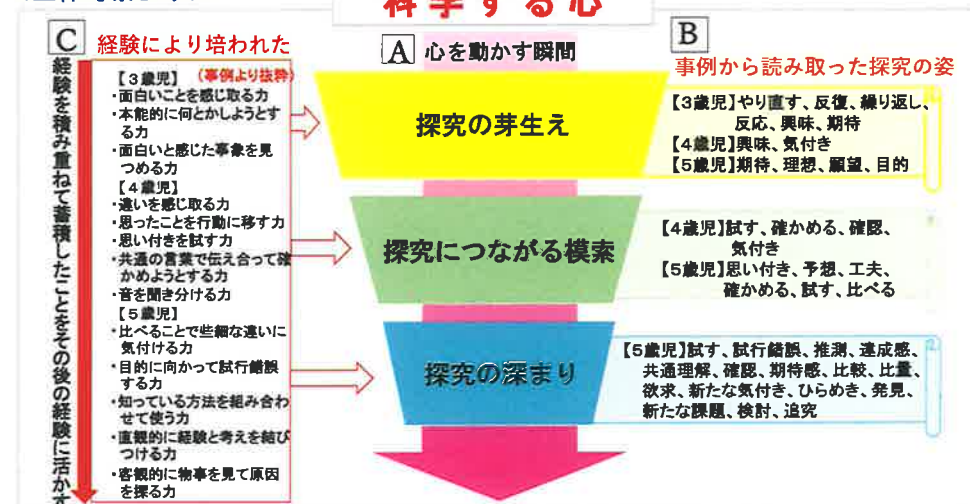
最高のさら砂づくりの(奈良市立伏見こども園)

表5 最高のさら砂づくりに挑戦しよう

道具の違いを比べる	道具を組み合わせ、工夫して使う
「おろし器」 ・砂のままだと使えない ・泥を固めると削ることができる 写真1	固めた泥を削って茶こしを使う ・おろし器で削ってから茶こしを使うと、フワフワのさら砂になった 写真4
「味噌こし」 ・できた砂にわずかに小石が混ざっている 写真2	何度も茶こしで砂をふるう ・繰り返し砂を茶こしでふるうと細かいさら砂ができる 写真5
「茶こし」 ・今ある道具の中では穴が一番小さくて最強 写真3	すりこ木で潜して茶こしに通す ・最強の茶こしと、すりこ木ですり潰すと前よりサラサラになった ・最高のさら砂になる 写真6

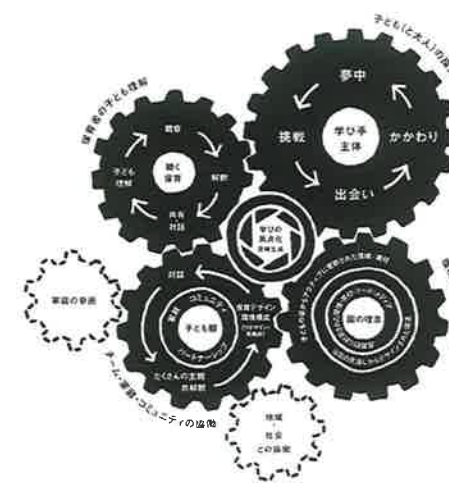
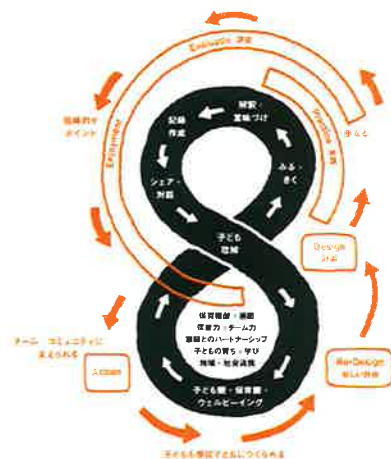
※写真1～6は子ども達の気づきを検証するため顕微鏡で拡大したもの(100倍)

<全体考察より>



探究の深化により「科学する心」が育まれる成長過程

保育の質を高めるために



協働探究の 88モデル

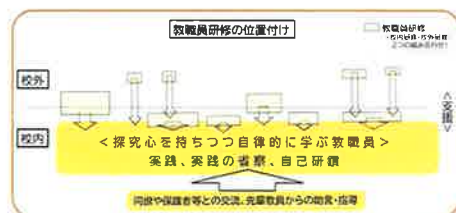
それぞれの歯車の「軸」

- ①子ども（と大人）の探究 = 「学び手主体」
- ②保育者の子ども理解 = 「聴く」保育
- ③チーム・家庭・コミュニティの協働 = 「子ども観」
- ④環境を通した学び = 「環境に込められた園の理念」



学びつつけるためには探究型研修が必要 子どもと共に保育者も探究する

全国教職員支援機構(NITS)
本年度より探究型研修を開始



一人一人の学びの在り方

「研修で学んだこと」

「知る・わかる」「気づく」「考える・見つける」

知る・わかる

気づく

考える・見つける

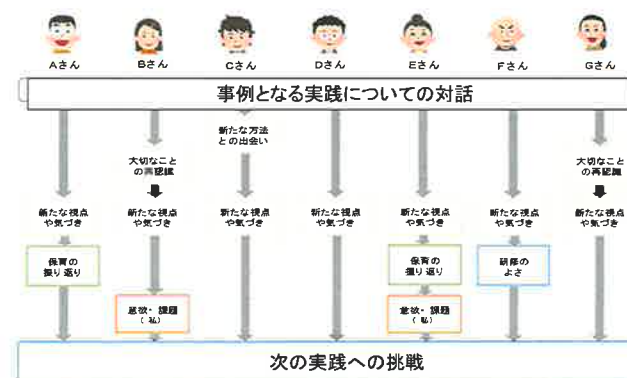
1. 他の人が発言した内容をそのまま知識として得た・理解する
例) 子どもたちが調べられるよう**をすればいいのだとわかった。
2. 自分なりにどのようなことを価値づけや意味づけを考えた、気づく
例) **により、個人のペースでより興味が広がった。見つけた！という思いが生まれると気づいた。関係論的、システムの多様なつながりに気づく。
3. 自分で考えた上で、課題や次にやってみたいことを見つける
例) **はこれまで子どもが手に取れる場所になかった。様々な**に興味を持てるよう、自分たちで調べるといった経験ができる学びの環境をデザインする必要があると思う。

出典 秋田喜代美他(2023)「園内研修でもっと豊かな園づくり: 学びが広がる・深まる」中央法規

集中・没入から、気づきやつながり、そして探究へ

こころのつぶやき	気づきの質
なるほど、あっそうか	新たな知識や情報を得て、それまでの知識とつながる
あれ、あっ、おや	驚きや疑問や不思議など今までとちがう事実に出会う
ああ、見える	より詳細に丁寧にみる、見比べることで気づく
こういうことだったのか	自ら試してみても初めて、自分ごとになって気づく
ここが変わったな	子どもの理解、自らの過去と今の変化に気づく 時間的変容
こんなこともできそう	新たな方法への気づきや見通しによるシミュレーション
つまり、要するに	振り返りを通しての新たな見方への見方や自身の在り方の特徴への気づき
もっとこうしてみたい	こんなことができるのではと対話等から着想を得る

研修における学びの多様性



独立行政法人教職員支援機構



協働的な探究を研修で行うために

前提: 心理的安全性、時間の保障、学びの環境デザイン(空間・道具)

共に学ぶ他者への意識・敬意
傾聴、あいづち、うなずき等を伴う理解・共感
共同注視、問い返し・たちどまりの対話
他者のよさ(独自性、卓越性)への気づき・承認

自己理解の深化 目にとめ、心にとどめ、書き留める
情動の開示(困惑や戸惑い、ワクワク、不明感)
丁寧に注意深く見る、楽しみや対象への愛着を持って
みる、細部をみのがさないようにする
自分自身の過去の経験と関連づける
互いに関係ないように見えるものもつなげてみる

独立行政法人教職員支援機構

探究協働のワクワクコミュニティネット ワークの形成へ Professional Uncertainty

各地域の歴史や文化
と学びによる
保育哲学・教育哲学

